

## SCHOOL DATA

〒299-0117 市原市青葉台1-10-1  
 TEL 0436-62-3888 FAX 0436-62-5733  
 ■児童数/515人 ■教職員数/34人 ■周辺環境/住宅地



【ビオトープの全景】



【児童の憩いの場となっている】

### ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/430㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2006年3月
- 直近の改修年/2009年
- 主な管理者/教職員、なんでも楽しい理科活動委員会、おやじの会

#### [生息している動物]

ヒメダカ、メダカ、フナ、カエル、アキアカナ、ギンヤンマ、イトトンボ、バッタ、フナ、ドジョウ、カワニナ、コオロギ、コゲラ、キジバト、シジウカラ、スズメ、ツバメ、ツグミ、ハクセキレイ、ムクドリ、ヒヨドリ



#### [生育している植物]

ハス、大賀ハス、ガマ、アサザ、スイレン、クレソン、ハギ、フヨウ、ハーブ、ウイキョウ、シロツメクサ、モミジ、シユラン、アケビ、クワ、クヌギ



#### [今後生息・生育させたい生物]

ホタル

#### 【コンセプト】

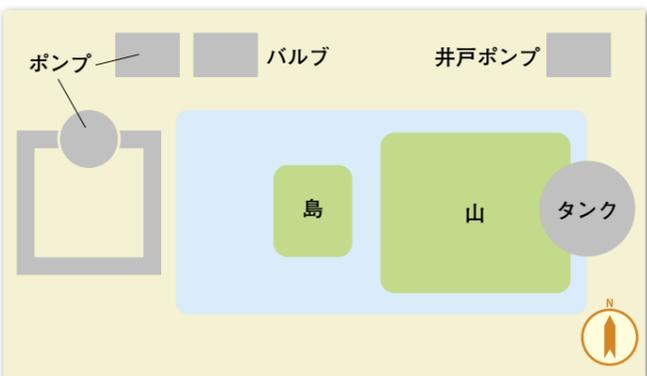
本校は、東京湾に面した市原市の北西部を走る内房線から3km程山手の団地内に位置している。創立から34年が過ぎ、校庭のフェンス沿いに植えられた樹木がようやく自然を意識づけさせてくれている。

創立30周年を記念して造られたビオトープは、校舎に挟まれた西側に位置し、1階の教室では授業中に水の流れる音やカエル・コオロギ等の鳴き声を耳にすることができる。

自然を学校の敷地内の教室に近い所に再生することにより、子ども達が自然をより身近に感じ、普段接することのできない水生生物や昆虫、植物、野鳥といった生物に自然の状態で見ることが出来る。これは、自然に対して、いつでも興味関心が持てるように配慮したものである。

地域から「ホタルが観賞できるようにして欲しい」との声があったため、今年度井戸を掘り、循環水を水道水から地下水に変更した。

ホタルとふれ合うことで、子どもや地域住民が自然環境に関心を深め、自分たちの住んでいる自然環境を大切に守る行動を身に付けてほしい。



【ビオトープの草刈り】



【井戸からくみ上げた水を循環する】

### ビオトープの活用方法

#### ■児童・生徒

授業として1・2年生は生活科で、3年生から6年生までは理科や総合的な学習の時間で活用している。教室に近いことから全校児童が常時活用（遊び場として）している。

#### ■地域住民

平素から「開放された学校」であり、地域の方々が随時ビオトープを訪れ、憩いの場としている。

### ビオトープの効果

#### ■児童への効果

学習の時間のみでなく、休み時間など、常時ビオトープに足を運び生物と接する姿がみられる。自然の仕組みに関心を持ち、生命の大切さや動植物に対する心の持ち方が育まれている。水の流れる音は、学習中の子どもへの「ガンバレガンバレ！」の声援である。

#### ■教職員への効果

身近にあるビオトープで生活科・総合的な学習・理科の時間に生きた教材として、効果的に活用することができる。また、カエルや虫の鳴き声は、授業中は「応援歌」であり、放課後になると安らぎのひとつとなり元気づけられる。

#### ■保護者・地域住民への効果

ビオトープに関心が高く、定期的に観察している方がいる。また、管理の方法をアドバイスしてくれる方もいる。ホタルの鑑賞会は地域の方々の夢でもあり、実現は間近である。自然とのふれ合いの場であり、憩いの場でもある。

#### ■その他、期待される効果

ビオトープにより、児童、学校、幅広い年代の地域の方々とのふれ合いと連携が強化される。

将来的には、太陽光発電で井戸のポンプを稼働することにより、環境を考えた積極的な学校の取組を、地域・保護者の方々に理解していただく。

### 保護者、地域との連携

#### ■保護者

11月の公開授業でビオトープについての理解を深めていただくことで、保護者からの支援と協力の一層の充実が図られる。

#### ■自治会、町会

11月の公開授業及びホタルの鑑賞会の案内等を町会に回覧することにより、地域の方々の学校教育活動についての理解が深められる。

#### ■NPO

青葉台さわやかネットワークとの連携により、ビオトープの管理維持における技術的援助を得ている。

#### ■その他

「おやじの会」のOBIに、ビオトープの補修整備の技術的支援をしていただき、充実したものにすることができる。

### 整備・活用・管理等の課題

これまでは水道水を循環させていたが、水の循環が悪くなってきたので、今後は地下水の放流により、流量や水質などの環境を変えていきたい。

ホタルの鑑賞会を大きな目標として、児童による「なんでも楽しい理科活動」委員会の常時活動における管理・観察を進めたい。また、委員会の仕事（ホタルの幼虫の飼育、ビオトープの掃除）を充実させていきたい。

### 今後の展望

団地の中の学校であるが故に、地域のビオトープに対する関心は非常に高い。よって、協力体制もしっかりしているので、ホタルの鑑賞会が確実にできる条件整備を図っていきたい。

また、太陽光発電の利用を進め、学校教育現場で先進的な取組を行うことにより、環境を重視した教育活動を推進していることへの理解を深めさせたい。

### 整備担当者(教員、児童、保護者等)から

「ホタルが観賞できるビオトープに！」が、ビオトープを設置した「おやじの会」の夢であり、地域の方々の夢でもあったため、今回、井戸を掘り地下水を汲み上げることにより、水質並びに水量という条件が整えられたことは喜ばしいことである。地域と学校の一つの大きな夢が実現したと言える。夏場、子どもに人気の高いビオトープであったが、「ホタルが観賞できるビオトープ」となると、年間を通して児童の関心は高まる。これは子どもばかりでなく、地域住民並びに教職員も同じことである。

今後は水の管理等を大切に行い、子ども・地域住民の夢が叶うホタルの住みやすい自然環境づくりをしていきたい。小さな小さなビオトープでの自然とのふれ合いから、自然環境保全を地球規模・宇宙規模で考え行動する人間が育ってくれたら最高である。



【「なんでも楽しい理科活動」委員会のメンバー】